

地球市民の一員として、エネルギー産業の一企業として、 私たちは持続可能な社会づくりに貢献します。

私たちコスモ石油グループは、石油を中心に、日々の暮らしと産業の発展に必要なエネルギーを、安定的かつ効率的に供給することが最大の社会的使命であるという認識のもとに事業活動を展開しています。化石燃料、とりわけ私たちの扱う石油は、人類にさまざまな恩恵をもたらしてきましたが、その一方で、石油の大量消費が、地球環境に負担を強いてきたのも事実です。したがって、今や、石油会社にとって環境保全は、安定供給と同様の社会的責任であると、私たちは認識しています。

社会全体の環境負荷を低減し、持続可能な社会づくりを推進するために、企業が担うべき役割は、ますます大きなものになってきました。とりわけエネルギーの供給とその消費によってもたらされる環境負荷を低減することは、持続可能な社会を実現するためのキーであり、エネルギー産業が果たすべき役割の重要性を痛感しています。それだけに、私たちは、経営の最優先課題に「環境」を掲げ、石油製品の生産や消費によってもたらされる環境負荷の低減や、より環境負荷の少ない新エネルギーの開発・供給に努める一方、自然保護や再生活動を通じて、地球環境のキャパシティを高める活動に取り組んでいます。

石油産業の一員としての環境保全活動

産業革命以降、エネルギー源は、石炭から石油へとシフトしてきました。いわゆる炭主油従から油主炭従、固形から液体へのエネルギー転換です。現在、日本の社会はエネルギーの約50%を石油製品でまかなっており、その経済性や安全性、安定した供給のためのインフラ、残存する資源量など、さまざまな点から見ても、石油エネルギーを中心とした社会構造が短期的に急変する可能性は小さいと考えられます。当社では、石油製品のライフサイクル全体での環境負荷を低減するため、原油生産から輸送、精製、販売、消費に至るすべての工程での環境負荷削減に積極的に取り組んでいます。

2002年度は、まず廃棄物の削減を図るために、製油所から排出される活性汚泥の減容化システ

ムを開発し、坂出製油所に導入し、その実効をあげています。また、温暖化防止のための省エネルギーにも継続的に取り組んでおり、2002年度は4製油所合計で、原油換算処理量当たりのエネルギー消費量を1990年度比9.7%削減しました。これは2001年度の1990年度比9.1%よりも、さらに0.6%削減した計算になります。また、石油製品の使用時における環境負荷削減のために低硫黄軽油の開発に取り組み、2002年9月より硫黄分50ppm軽油の東京都への試験供給を開始し、2003年4月より全国への供給を開始しました。

お客様と一体になった活動

環境問題は、地球全体の問題であると同時に、私たち地球市民一人ひとりの問題でもあります。当社は2002年4月、お客様にも環境保全活動にご参加いただける機会として、コスモ・ザ・カード「エコ」の発行を開始しました。これは、コスモSS(サービステーション)でご利用いただくクレジットカードで、毎年500円の寄付金をお預かりするとともに、カードの売上に応じて当社からも寄付を行うという仕組みで運用されています。2002年度は、約5万6千人のお客様にご入会いただき、集まった寄付金を途上国などの環境保全プロジェクトに役立てることができました。その際、効果的な支援を行うために、当社の社員が現地に入り、NPOなどのパートナーとともに直接プロジェクトに関与しています。また、より多くの方々に関心を持っていただけるよう、テレビコマーシャルや新聞広告でも活動を紹介しています。こうした支援活動は、2001年度までは当社が単独でNPOと協力して行っていたのですが、2002年度からは、多くのお客様にコスモ・ザ・カード「エコ」にご入会いただき、活動に参加していただいたことで、企業とお客様とNPOの相乗効果が生まれ、社会的影響力の高い活動を展開することができました。

特に2002年度は、パプアニューギニアやソロモン諸島などで焼畑農業によって失われている熱帯雨林の保全と、その背景にある食糧問題の改善を図るために、定地型有機稲作の普及を目指して人材育成の支援や精米機の寄贈を行い



ました。さらに、現地の行政と一体となり、より効果的・継続的な支援を行うために、パプアニューギニア政府とのMOU(覚書)を交わしました。

このほかに、CO₂排出権取引を利用した新たな取り組みも行っています。2002年度は豪州で植林関連の事業を行っている民間企業から24,000トンのCO₂排出権を購入し、これをもとに「二酸化炭素吸収証書」を発行しました。この証書を、12月にコスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆様が給油したガソリンから排出された11,195トンのCO₂に充当し、「CO₂フリーガソリン」として提供したほか、1トンずつ消費者の皆様へ販売するなど、私たち個人が、石油製品のユーザーとして温暖化防止に向けて取り組める方法を提案しました。

総合エネルギー事業の展開

当社は、環境負荷の少ない石油製品の安定供給に努めるとともに、将来を見据えたエネルギー開発にも積極的に取り組んでいます。

2002年度は、当社の触媒開発技術をもとに国内で初めて天然ガスからの液体燃料油製造に成功したほか、脱硫ガソリンを原料として燃料電池用の水素を製造・供給する「水素供給ステーション」の運営も開始しました。また、新事業として2003年7月からIPP(電力卸供給)事業を開始しました。発電した電力は、中部電力に卸供給しています。

環境先進企業を目指して

当社は「環境先進企業」を目指していますが、実態はまだ道半ばです。2002年4月には「環境で選ばれるコスモ石油」を目指して、環境中期計画「プーア21」を策定し、「地球環境委員会」を執行部門、常務会を意思決定部門とした社内体制を整え、積極的な活動を展開しています。さらに2003年4月には、コスモ石油グループとして、環境に関する基本方針を包含する企業倫理規程および行動指針を制定・施行するとともに、企業倫理推進室を新設しました。

当社は、社会から真に愛され信頼され存続を期待される企業であり続けるために、活動の実態を開示するとともに、社会からのご意見に真摯に耳を傾けることが重要であると考えます。そのため、2001年からコミュニケーション活動の一環として「環境報告書」を発行しています。環境保全・社会的責任活動に関する体系的でわかりやすい情報開示を心がけているほか、情報の正確性・透明性を確保するために、第三者機関の審査を受けています。より効果的で、本質的な活動を進めていくためにも、私たちの環境保全・社会的責任活動に対するご意見を、ぜひお聞かせください。

コスモ石油株式会社 代表取締役会長兼社長

岡部 敬一郎